

令和6年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修事業
第2回 オンライン研修 実施報告書

■日 時:令和6年7月23日(火)10:00~12:00

■参加者:36名

■進 行:特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会 副代表理事 北御門 織絵

■タイムテーブル

時刻	内容
9:50	開始前アナウンス
10:00	開会
10:10(40)	【事例発表】 「令和5年度台風2号、7号における災害多言語支援センターの設置事例」 講師:一般財団法人 静岡市国際交流協会 石黒 幸子 氏 質疑応答
10:50(30)	グループディスカッション
11:20	全体共有
11:45	質疑応答
11:55	まとめ *アンケート依頼、次回の案内
12:00	<終了>

【主催者挨拶】

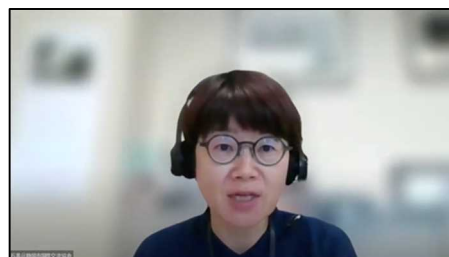
(一財)自治体国際化協会

多文化共生部 多文化共生課長 滝澤 正和 氏

【講義】

「令和5年度台風2号、7号における災害多言語支援センターの設置事例」

講師:一般財団法人 静岡市国際交流協会 石黒 幸子 氏



(質疑応答)

Q.2回目の多言語支援センターの設置の際の情報発信で、多言語とやさしい日本語が揃ってから発信したため、情報発信のタイミングが遅くなってしまったとありました。センター設置の中で、2回違う形で発信した経験から、全部揃ってから発信したほうがよかったのか、やさしい日本語ができた時点で先に発信したほうがよかったのか、どう思うか教えて欲しい。

A.初めての時は言語の発信タイミングが言語ごと違うと受け手の混乱があるのではないかと、というところや管理する運営者もどの言語がどこまで翻訳したのか管理が難しかった。2回目については揃えて発信をした。ただ、やさしい日本語のアクセスが多かったとのデータがあるので、タイムリーにやさしい日本語を先に発信するのも検討したい。

Q.情報のトリアージはどの Web サイトを見て収集したのか。

A.最初は、静岡市役所の中に事務所があるので、最初は市の災害対策本部から出てくる情報も発信するようにしていたが、とても情報が細かいのと、細かく載せるのに対応が早くできないので、最終的には静岡市が公式の LINE を運営しており、その中に防災メールがある。そこに上がってきたものをあげていった。たくさん見たというより、市の公式 LINE を確認して情報のトリアージをした。

Q.グループ LINE のタイトルが災害名になっているが、災害毎にグループを作成しているのか。

A.8月の活動の時にグループを作った。それ以降立ち上げはないが、災害が起きた時に対応可能な職員でグループを作るということが決まっている。

Q.静岡市などとの協力体制はあったか。静岡市との役割分担について教えてほしい。

A.今回は情報発信のみだったので、情報発信の作業自体は協会スタッフのみで対応をした。市がどのような動きをするのか。どのぐらいで災害対策本部が立ち上がるのか、とか、その前の協議会の協議内容(何時ごろ災害対策本部が立ち上がりそう)は担当課より情報提供があった。それを受けて情報発信をしていた。他の団体の協力ははっきりとはないが、協会の相談員が外国人コミュニティーのメンバーがおり、その人を通してコミュニティーに注意喚起をしてもらった。

Q. SNS での発信以外に、外国人住民からの電話対応などもあったか。

A.事務所には電話はなかったが、台風が去った後に被害を受けた人の罹災証明についての問い合わせがあった。その対応をすると同時に罹災証明の書き方や支援の内容などの案内をした。

Q.Facebook の周知はどのように行っているか。Facebook を活用して情報発信しているが、Facebook の周知が課題だと思っている。また、フォロワー数はどのくらいか。

A.周知は、チラシを作って情報提供していることを知らせている。また、外国人住民が参加するイベントの時に周知をしたり、イベントの時情報の拡散をしている。地道な活動。フォロワー数はわからない。

Q.情報発信を進める中で、外国人や外国人と関わる方からの相談や問合せなどはあったかどうか、情報発信以外にも想定外の対応が発生したかどうか知りたい。

A.コミュニティーからの直接の問い合わせはなかった。避難所巡回などが考えられるが今回なかった。相談対応であれば、平日相談対応をしているので、そちらの方に災害関連の相談もあったので適宜対応した。

Q. Facebook への多言語原稿の投稿は、一つのフィードにまとめるのではなく、分けた方が見られやすいのか。(統計を取るのは、言語別が有益だと思いましたが)

A.一つのフィールドにまとめて出していた時期もあったが、外国人相談員の意見として、8言語での発信の中で、一番上に自分の言語がないと、自分の言語では対応していないと思い、次から見ないとの意見が

あった。どの言語を上にするかなどの議論もしたが、今は一つのフィールドに一つの言語としている。
《グループディスカッションの共有》

グループ1

外国人の属性や言語を絞るのは難しい。スピードと正確性を担保するのは難しいので情報発信のテンプレを作成するのは大事だと思った。訓練ではより実践に即した情報発信の方法を取り入れるなどが必要だと思った。協会の人員体制など整えていくのが大事。対応経験したことがないと想定がしにくい、訓練・市町連携が大事。顔の見える関係が大事。スタッフの在宅作業の体制整備もしておかないと、と感じた。

グループ2

経験の少ないメンバーがグループだった。国際交流協会の職員が変わる宿命にあるので、ノウハウの蓄積や継承が必要。一度実施したものをテンプレートに残しておく作業は必要で、それを作っただけにせず、それを使った訓練や、内部だけの動きではなく外部の力を借りて意識啓発をしていくことが必要。県という立場だと個々の団体や人と関係が作りにくく、市町の協会や地域日本語教室の人たちと、イベントを通して関係性を作っていくことが大事と感じた。

グループ3

グループメンバーが災害多言語支援センターの設置に関して経験レベルが違う人同士だった(何も動きがない、時々している、いつも実施しているなど)。各々の取り組みや講義の感想を共有した。その中で、Deep L の利用が新鮮だとの意見や、実際に使っている人の意見を聞いたりした。トピックとして出たのが情報のトリアージについて、実際に誰が、どんな風にできたのか。そのほか、所属している団体の取り組み状況や、協力体制(所管担当課と協会など)を組んでいるのか、三者三様だったのでお互いに情報共有ができてプラスになった。

グループ4

事例の初めてのセンターの立ち上げについて、そのプロセスやトライアンドエラー、ふりかえり、8言語対応もすごいという感想が多く出た。話の中で、地震を想定したマニュアル作成になっているところが多く、雨の訓練について抜けてしまう傾向に気づいた。地震が起きた時や大規模災害が起きた時に、台風や雨のように助走の時間がないので、マニュアルがまとまっても、ツールの使い方や HP の掲載方法など誰が、どのようになど、日頃から扱い慣れてないと有効に使えないという意見があった。

グループ5

実際にセンターを立ち上げたとき、タイムラインの整理や情報をストックし、次に活かしていくための準備をされているところや、対応した後に訓練をしたなど、迅速な対応が素晴らし、勉強になったと共通した意見があった。また、外国人を巻き込んだ防災訓練などは実施しているが、地震を想定した訓練を実施している訓練が多いので、台風大雨の訓練など効果的な訓練の企画・実施をしていかなければと意見を交わした。

グループ6

やさしい日本語のアクセス数が多かったことに驚いたことや、機械翻訳の Deep L や Google 翻訳の性能の違いについて学ぶことができた。実際に現場を経験した人じゃないとわからなような事例発表でとても参考になった。外国人防災教育や外国人コミュニティの把握や、在宅での訓練実施、関係団体等との LINE ツールを作成したい、ということや事例発表を自分のところの自治体でも開催したいとの意見があった。

グループ7

研修などで勉強したことを実際にどのように活かすのか、それと災害前の連絡網の構築が大事だと改めて感じた。いざという時、どれだけの関係者、繋がっている人に連絡できるか、人を集めることができるかな

ど、普段から連絡網を作っておかないと迅速な対応が取れない。今年1月の地震も、石川県が行政という立場で活動が難しかった(遅れた)。民間団体が県より早く動いたという状況があった。民間は普段から地域や人との関係性が強かったからだと感じている。発信ツールもHPだけFBだけでもダメ。その県、その市町の外国人の状況に応じて対応していく必要がある。自動翻訳も使っているが、必ず翻訳をチェックする必要がある。翻訳はできたかもしれないが、間違ったところがわからないという問題がある。細かいニュアンスのミスが出るので、必ずチェックする必要がある。やさしい日本語もどんどん使ってほしいと思う。行政より民間団体が担っているが、行政も使ってほしいと思っている。

グループ8

FBでの情報発信の話が話題に上がった。グループメンバーの全員の団体がFBを持っていて、普段からフォロワー数を上げてイベントの情報などをアップして災害時にも役立てていくように工夫をしている。発表の中で、FBに同時にアクセスすると編集ができなくなることがあるということも聞いたので、FBの使い方、更新の仕方についても検証していく必要があると感じた。そのほか、Google Driveの活用についても話が上がり、在宅でもインターネットがあれば同時に編集もできるのでGoogle Driveの活用も大事だと感じた。翻訳については、アプリを使ったとしてもチェックして情報配信。それから、過去の配信情報などをテンプレ化して事前に準備しておくことも大事だと感じた。また、各都道府県で作成している防災アプリなどもあるので、普段から外国人にも周知する必要があるのではという意見があった。

《グループディスカッション後の質問に回答》

Q. 静岡市の要請がなかったけどセンターの設置をしたという経緯、プロセス、協定を知りたい。

A. 静岡市との協定だと、市からの要請を受けて支援センターを立ち上げるとあるが、市から要請がない場合、立ち上げてはいけないのかという議論があった。最初の6月に対応した時に、災害対策本部の設置を待っていたが、お昼前から雨もひどく警報も出ていた状態で、当時、協会職員はセンターの設置について迷っていた。実際に災害対策本部が立ち上がったからセンターの活動を始めたが、後日、もっと早い段階で立ち上げて良かったのではないかという意見が職員の中から上がった。その状況を市と協議し、市から要請がなくても協会の判断で立ち上げようという話をし、担当課とも合意を得て、必要であれば設置をして情報提供をしようと決めて活動、発信をした。

Q. 市協会の判断で設置をした時、設置の判断をしたのは誰がしたのか。

A. 国際交流協会が判断をしたときは、事務局長がトップになるので、事務局長が判断をして市に話をした。

Q. 災害多言語支援センター設置訓練をどのように企画運営されているか。訓練での市、市協会の役割分担や、その他防災リーダー等にも参加してもらった場合、どのように巻き込んでいるのか知りたい。

A. 今年1月に実施したときは、市や防災リーダーにも参加した。企画運営は協会ですが市の職員にも参加してもらい、災害時を想定して市職員の役割をしてもらったり、メディア対応をしたりしてもらった。外国人も被災者役になってもらい、災害多言語支援センターに相談する役をお願いし、ロールプレーを実施し、1つの役割、プレイヤーとして参画してもらった。

Q. スライドのP14、24のFBの情報アクセス数のことで質問。昨今、茨城ではネパール国籍の人が増加している。データを見ての印象だとネパール語でのアクセス数が見えると嬉しいと思うが、情報弱者にならないように、やさしい日本語で発信するのも大事だが、ネパール語で情報発信ができればと思っている。

A. ネパール語のアクセス数が低いというデータにはなっていることを協会の中でも話をした。アクセス数が低いからといって、ネパール人が協会に相談に来ないのかというと、そうではなく相談は結構ある。どうし

てアクセス数が伸びないのかという話をした時、FB の使用は年代で違い、若い人は FB をあまり使ってないという状況や、国籍によって違う SNS を使っているということもわかったので、SNS によっては国別、年代別で差が出てしまうことがわかり、発信する媒体も見直す必要があると感じている。

Q. 災害時に、相談員(パート)が出勤するにあたり、最初から取り決めがあったか。

A. 最初のセンター運営の時に、この点は問題になった。センター運営の時、出勤できる人、対応できる人は手を挙げてくださいという声掛けをして、センターを立ち上げた。当時は、災害対応に集中してしまい、その後、その活動が業務だったのか、手伝う程度だったのか曖昧だった。その後協議し、グループ LINE で連絡をとり、「対応できます」と返事があった時点から業務スタート(時間給発生)として対応することになった。1回目が後付けになってしまい、2回目から調整をした。

【閉会】

【参加団体一覧】

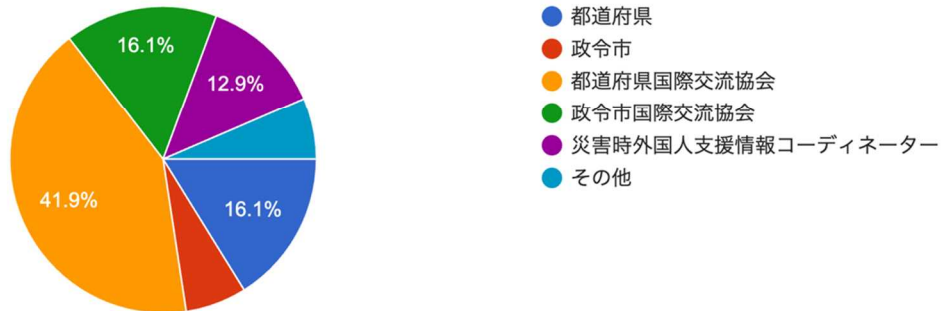
地域ブロック	都道府県	団体名	参加者数
北海道・東北	北海道	(公社)北海道国際交流・協力総合センター	1名
	青森県	(公社)青森県観光国際交流機構	1名
	宮城県	(公財)仙台観光国際協会	1名
関東	茨城県	つくば市国際都市推進課	1名
		茨城県女性活躍・県民協働課	1名
		(公財)茨城県国際交流協会	1名
	栃木県	栃木県県民協働推進課	1名
	埼玉県	(公財)埼玉県国際交流協会	1名
	東京都	(公財)東京都つながり創生財団	1名
	神奈川県	(公財)かながわ国際交流財団	1名
		神奈川県国際課	1名
		藤沢市 人権男女共同平和国際課	1名
山梨県	山梨県男女共同参画・外国人活躍推進課	1名	
東海・北陸	石川県	石川県	1名
	福井県	(公財)福井県国際交流協会	1名
	静岡県	浜松市国際課	1名
近畿	京都府	(公財)京都市国際交流協会	1名
	大阪府	(公財)大阪国際交流センター	4名
		(公財)大阪府国際交流財団	1名
	兵庫県	(公財)神戸国際コミュニティセンター	1名
中国・四国	鳥取県	(公財)鳥取県国際交流財団	1名
	広島県	広島県地域政策局国際課	1名
	山口県	(公財)山口県国際交流協会	1名
		下関市総合政策部国際課	1名
	徳島県	(公財)徳島県国際交流協会	2名
	愛媛県	(公財)愛媛県国際交流協会	1名
	高知県	(公財)高知県国際交流協会	1名
広島県	(公財)広島平和文化センター国際市民交流課	2名	
九州	長崎県	(公財)長崎県国際交流協会	1名
	大分県	大分市企画部国際課	1名
	鹿児島県	鹿児島県	1名

令和6年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修事業
第2回 オンライン研修 実施報告書(アンケート) 回答:31人

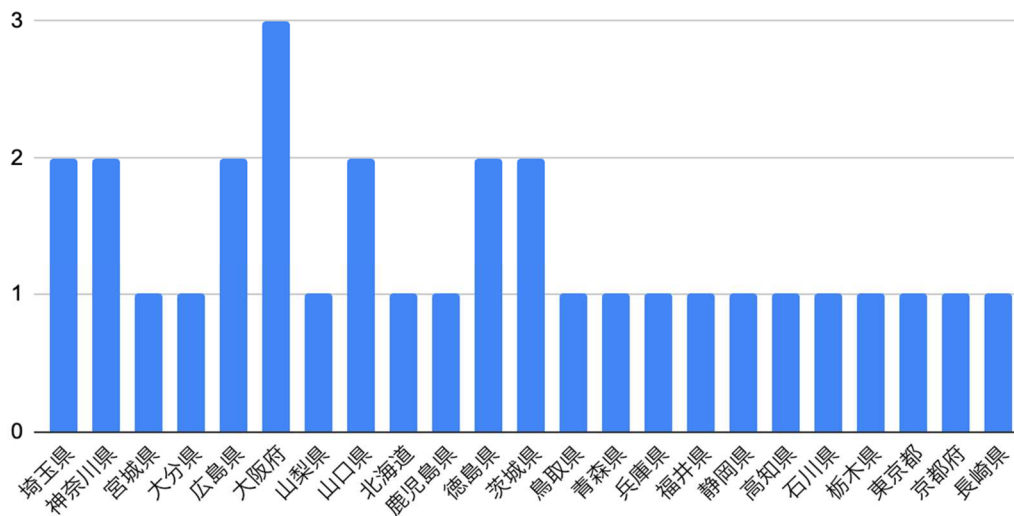
あなたのことについて教えてください。

Q1. 所属団体・部署等 (選択式)

31件の回答



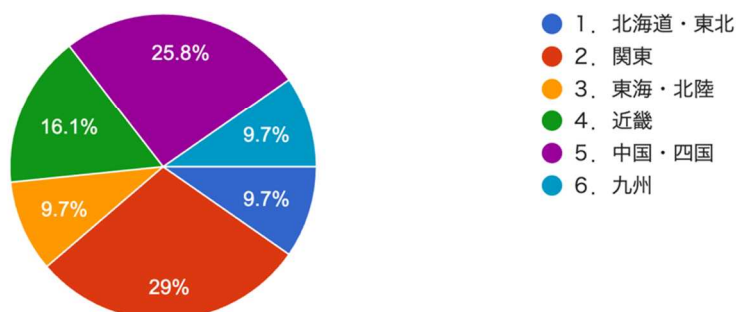
「Q2. 都道府県 (選択式)」



「Q2. 都道府県 (選択式)」のカウント数

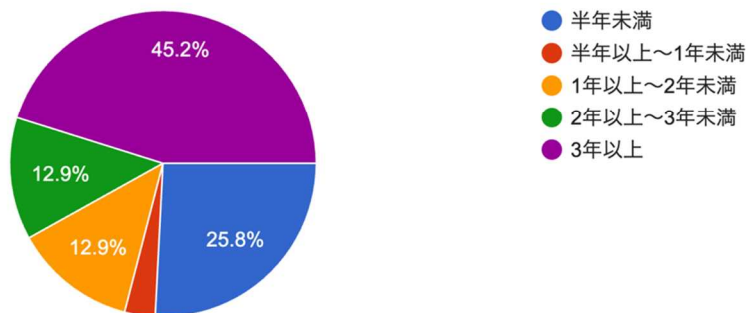
Q3. ブロック (選択式)

31件の回答



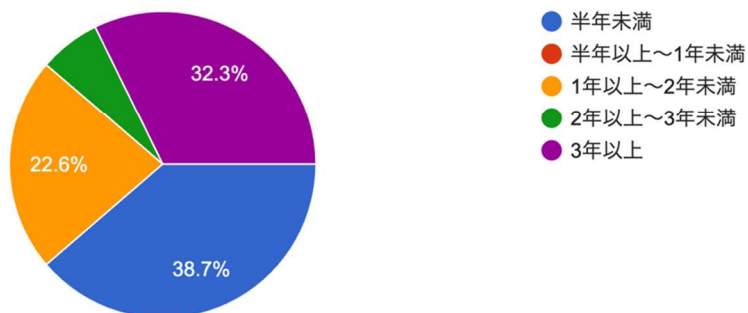
Q4. 多文化共生関連事業の経験年数（選択式）

31件の回答



Q5. 災害時外国人支援関連事業の経験年数（選択式）

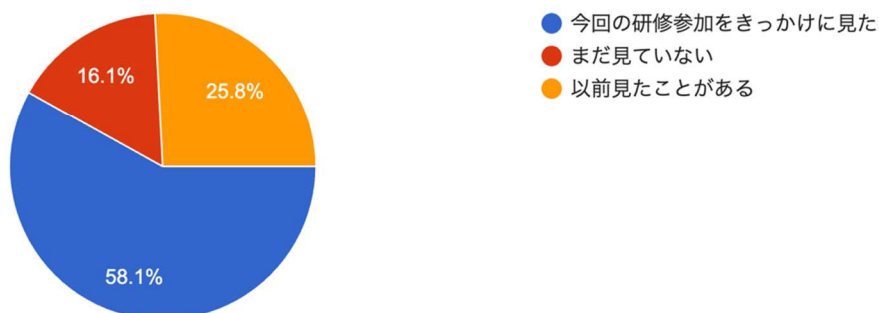
31件の回答



2. 研修を受講してのご感想等を教えてください。

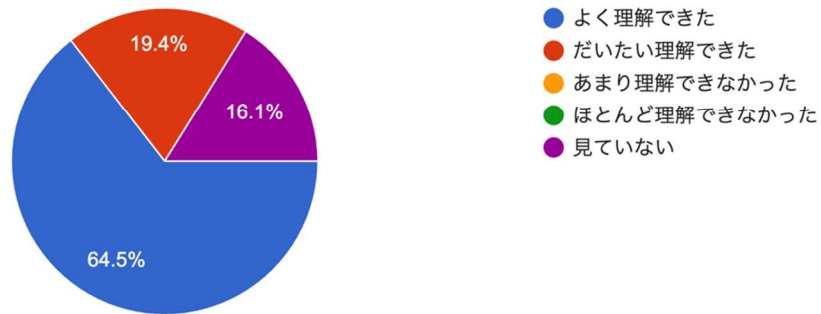
Q6-1. 基礎講義動画をご覧になりましたか？

31件の回答



Q6-2. 基礎講義動画の内容は、ご理解いただけましたか？

31件の回答

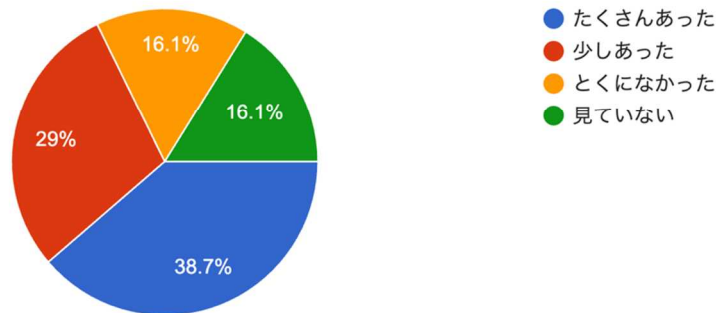


Q6-3.「Q6-2」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

【回答無し】

Q7-1. 基礎講義動画の中で、新たに知ったことや、気づいたことはありましたか？

31件の回答



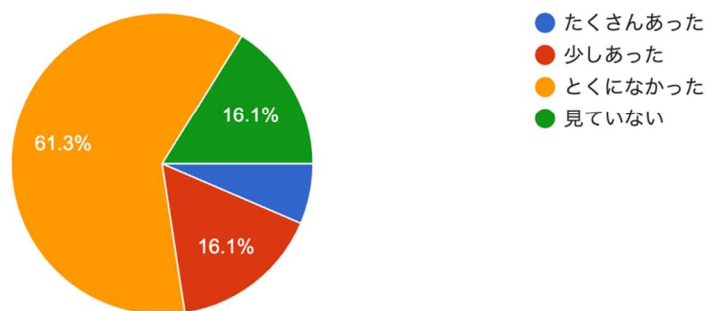
Q7-2.「Q7-1」で、「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- 指定避難所以外に、外国につながるのがある市民がどこに避難する可能性があるかを平時から考えておく必要があること。
- 「わかっていたけど、やっていなかった」は「人災」であること。
- 内容が非常によく整理されているので、職員訓練等にも使用したいが、受講者のみの限定公開ということが残念。
- 外国人防災リーダーの導入事例については、この後じっくり紹介資料を確認したい。
- 文化的背景などにより、災害や避難、防災に対する認識が全く異なるということ
- 災害時に外国人の方に理解できるように情報を届けることの困難さがわかった。
- 災害時に外国人の方が直面する困難
- 機械翻訳は便利だが、内容の確認も必要だということ。
- 過去の事例から、実際に多言語支援センターを設置する際にどのような動きになるのか、流れが理解できた。
- 改訂版手引きの説明

- 外国人が見た目でわからない。外国人がサポーターになれるので、災害時に大きな力になれると改めて思いました。平時にさまざまな研修を受ける機会がもっとあればいいと思います。・「ボイストラ」などを使ったことがないが、今度使ってみたいと思います。
- 覚えていない
- 日本人と外国人との事前知識の違い等
- 連絡体制・地域との連携・必要ツール・マニュアル作成・出勤可能職員他多数
- 「Five zero Japan」, 「NHK のやさしい日本語でたすけあおう」の存在を知らなかった。または熊本地震のとき、滞在しているホテルでは「避難の誘導はなかった」ことを初めて知った。(外国人向けの防災訓練のとき、「その施設のスタッフの誘導に従って、誘導してください」と案内しているのに)
- 留学生などが、ボランティアで翻訳や情報提供に従事されていた。日頃から、外国人住民を支援の対象としてだけに捉えるのではなく、助け合える同志としてなるような関係性が重要だと感じた。

Q8-1. 基礎講義動画の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？

31 件の回答



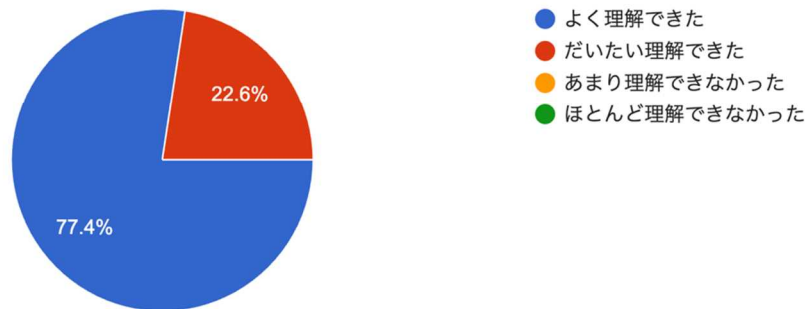
Q8-2「Q.8-1」で「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- 災害情報の自動翻訳事例について。HP の自動翻訳化を予定しているが、当財団対応言語以外の言語はチェックができないので、どうしたらよいか知りたい。
- 外国人の声を聴けてよかったと思います。災害時にどのような情報が必要か具体的な例があり参考になりました。
- 「被災したから困る」ではなく、普段からの困りごとが発災時により露呈するものだと実感しました。普段の困りごとを蔑ろにしないような予防的支援が重要となると思いました。

3. 第2回オンライン研修を受講してのご感想等をお聞かせください。

Q9-1. 事例紹介の内容は、ご理解いただけましたか？

31件の回答



Q9-2.「Q9-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

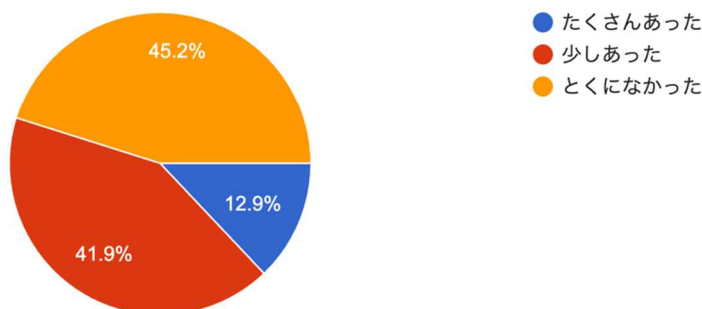
【回答無し】

Q9-3.「Q9-1」で、「よく理解できた」「だいたい理解できた」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- 実際に多言語支援センターで実施する内容や、やってみないと分からない課題について知ることができた
- DeepLの翻訳精度が高いこと、多言語で情報発信する際は、言語によって差が出ないよう、すべての言語が準備で来てから投稿すると効果的であること、しかしやさしい日本語に関してはいち早く投稿するとよいことなど、今後実際に対応する際に重要な情報を得ることができました。
- 特に方法発信のやり方を色々試していたということは興味深かった
- 災害時多言語支援センターを立ち上げ閉鎖後すぐに改善点をまとめ、次回に備えて訓練を実施したのが効果的だと思いました。実際に大変なことがあっても日々の業務に忙殺されて喉元すぎれば…となりがちなので、記憶が新しいうちに次に活かしていくための準備をすることは見習っていきたいです。
- 災害が起きた(起きると予想される)時に、職員が実際にどのように動くのかが、よく分かりました。
- FBの活用方法や気を付けるべきこと(複数でアクセスしないなど)、翻訳アプリの活用、Google Driveの活用、事前のグループライン作成や定型文(テンプレート)の準備の必要性など。
- 実際の災害時対応の事例
- 8言語で情報発信をされて、すごいことがだと思いました。災害時になれば、想定していないことが起こるかもしれないが、平時に準備できることも多いので、コミュニティとの連携、協力することが大事だとわかりました。
- 10-1が上手く表示されないのですが、たくさんの学びがありました。特に災害多言語支援センター設置運営訓練の運営方法、防災情報発信のための自動翻訳ツールの活用など。
- 対応の時系列や、どんなツールを使って対応していたか。
- 平常時の訓練等が実際の運営にどの程度役立ったか。
- 発災前の準備・発災後の対応・区市町村団体の役割分担・職員の対応スキル他
- 在宅対応の際の給与(または謝礼)計算方法
- 想定訓練を通して、多言語支援センターを立ち上げる必要性を共有しておくことが重要だと感じた
- 情報発信に限った事例で、災害時多言語支援センター立ち上げの経験のない所属先にとって、すぐに取り組める事例提供であったと思います。災害対応の想定では、どうしても地震発生を念頭に置いてしまいがちですが、実際に頻発するのは洪水や台風の対応なので、これからの台風シーズンに備えること・すべきことの課題が明確になりました。また事例提供が、一度の経験からの教訓ではなく、一度あったことの教訓を次にどのように生かし工夫されたかという点も含まれ、大変勉強になりました。

Q10-1. 事例紹介の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？

31件の回答

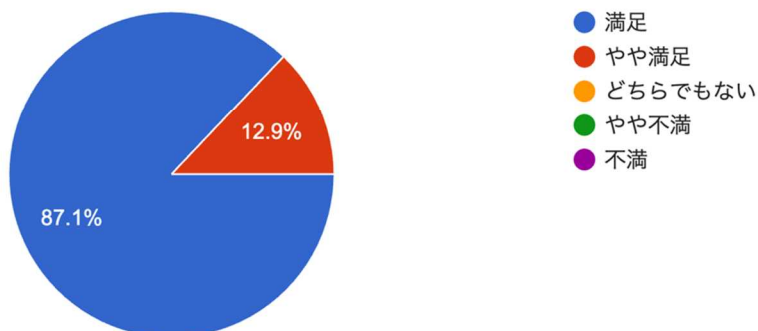


10-2.「Q.10-1」で「たくさんあった」「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- 市との役割分担やセンター運営に要した人件費等の財源について
- 質問させていただき、ありがとうございました。講義が大変興味深く、質問させていただきたいことが他にもたくさんありました。・今回ご紹介いただいたケースについては職員内でのご対応でしたが、災害ボランティアへの翻訳依頼等も想定されているのか。・現在の Facebook は自動翻訳機能が付いており登録者の言語に自動的に翻訳されて表示されると思うが、多言語での投稿を掲載されているねらいは何か。(当財団でもどのようにすべきか検討しています)・発災時に Facebook を確認してもらうために平時から呼びかけていること。・今回のご経験を通して、貴職員の訓練や外国人住民/ボランティア対象の研修等で取り入れておられること。・8-21 時の、職員の無理のない時間範囲で在宅を上手く組み合わせる業務対応されているので、どのように回しておられたか(人員配置、業務命令等ロジ)。当財団の多言語支援センターの配置にも参考にさせていただきたいです
- 在宅での対応は、相談員の方のみなのか、6 人正職員の勤務体制はどうだったのか、例えば、勤務時間は出勤し、時間外は全て在宅対応という体制だったのか。
- 外国語相談員の勤務の仕組みづくり。業務用 PC やスマートフォンで在宅勤務をしたのか。
- 協会判断で多言語支援センターを立ち上げる際の基準、ふだんどのような職員訓練をしているか
- フェイスブックによる多言語情報発信で、言語設定「デバイスの言語を表示」を選択する議論をされたのかどうか。
- 災害多言語支援センター設置運営訓練について、ロールプレイの流れなどはどのように検討、決定しているのかなどをより詳しく知りたいです。実際の訓練を映像で見られたらよりイメージが湧くと感じました。
- 発信する情報を翻訳アプリで翻訳し、相談員さんなどが翻訳チェックするとき、全ての言語のチェック人員が確保できたのか。在宅でも勤務できない相談員さんはいなかったのか。チェックできない言語があった場合、どうしたのか。
- 相談対応をしなかったのか、できなかったのかなど、相談にフォーカスしたことが聞きたかったです。
- 災害時のマニュアルはあるか？
- 勤務日ではない日に非常勤の職員が災害時の対応することについて謝金等の処理がどのようになっていくのか知りたかった。ただ、他の方が質問されたので解決しました。
- 提供情報のトリアージ

Q11-1. 第2回オンライン研修全体を通じての満足度をご回答ください

31件の回答



Q11-2. Q11-1 の回答の理由や第2回オンライン研修全体を通じてのご意見やご感想をお聞かせください

- 研修を受講したことで、風水害時の対応の見直しや、在宅対応を想定した訓練の必要性を認識することができました。ありがとうございました。
- 意見交換ができたことはよかった
- ご講義、もっと聴きたかったです。ブレイクアウトルームでもっと深い話ができたらいいのですが、それぞれの立場が違うのでなかなか難しいのかもしれないね・・・。
- 講演やグループワークを通じて翻訳アプリの利用やテンプレートの作成や平素の訓練の重要性が理解できた。
- 段階を踏んで何を行うのかを、事例に基づいて説明くださり、とても勉強になりました。
- 災害時の多言語情報を発信しても、外国人住民がその情報をどこで得られるのか知らなければ意味がないので、国別にどの SNS を使用しているのかを含め、平時から情報発信ツールの周知を心がけていこうと思いました。
- 災害時にどのような対応が必要となるか、事前にどのような準備をすべきか等が、具体例を聞くことでよく理解できました。
- 多言語支援センターの開設の苦勞や知識、経験を共有していただけたことは、非常に有益であり、研修の意義を強く感じた。またフリートークの際に、各自自治体の意見交換が行えたことも非常に有益であったと感じる。
- 事例紹介の内容は、とても有意義なものだったし、他の協会といろいろと意見交換ができて良かった。
- 実際の事例をご紹介いただき、とても参考になりました。ありがとうございました。
- 事例発表とグループディスカッションが丁度良い内容だったから。
- 災害時は手が足りなくて外国人に対する様々な配慮や情報の提供の難しさを感じた。平時中から準備をしておく、いざとなった時に使えるものが多い。
- 当協会には発電機がありますが、使い方などについて確認したいと思います。
- グループワークは私のグループはあまり活発な議論にならなかったと感じる。私自身、グループワークに不慣れなので、発言するタイミングがつかめなかったり、発言内容が議論の流れに沿ってない発言をしてしまったりした感じもして、グループの他のひとに迷惑をかけたかもしれない。
- 少なくとも同じグループの方々とは、今後も意見交換を続けたいと思いました。
- やさしい日本語のアクセス数の統計は参考になりました。また、災害時、在宅で災害対応する際のノウハウを知ることができ参考になりました。
- 積極的にご意見や事例をお話してくださっている参加者の方々に対して、自分がお話できる内容が乏しく申し訳ございませんでした。

- グループワークを通して、経験が浅いので多言語支援センターの立ち上げに関わることにプレッシャーを感じていたが、他のグループ構成員も同じような状況の中取り組んでいることがわかった。経験に関係なく、誰でも多言語支援センターを立ち上げられるようにしておくことが大切だと思った。
- 事例提供はもちろん、グループワークで他団体さんの状況やお考えもお聞かせいただきより理解が深まりました。
- 静岡市の事例紹介、大変興味深く拝聴いたしました。事前の準備、訓練などがあってこそと思います。災害時多言語支援センターを立ち上げた後の振り返りを反映させた訓練を行っていたからこそ、2度目の台風の情報で、災害対策本部の設置を待たずに支援センターを設置するという判断に至ったのだと思います。平時の準備や訓練がいかに大切かということを改めて感じました。当日、突然お休みされた方がいらっしやるとのことでした。ブレイクアウトルーム時に、自分のグループに欠席者がいるのかいないのか具体的な人数がわかれば良かったと思います。実施に共有された資料と、事前に配布された資料に微妙な違いがありましたので、講師のご負担の無い範囲で、最新のデータをお送りいただきたく思いました。基礎講座動画は、これから拝聴いたします。

Q12. その他、今後の「災害に外国人支援に従事する関係者向けの研修」事業において、取り上げると良いと思う内容等があればお聞かせください。

- 今回は災害多言語支援センターについて、情報発信に特化した事例紹介だったが、相談・避難所運営業務についても、事例があれば知りたい。
- 他機関との連絡調整(県と市、国際交流協会、語学ボランティア)の事例紹介
- 災害ボランティアへの研修や外国人住民対象の防災教室等で工夫されている内容や、職員防災訓練方法、外国人防災リーダー養成事例について、すぐ活用できそうな具体的な内容のお話が聞きたい。
- 支援を受ける(た)側の外国人の声、感想、提案など
- 日本語がわからない外国人の様々なニーズについて知り参考になりました。外国人ボランティアやサポーターとしての経験を持っている方のお話も聞ければ幸いです。ありがとうございました。次回もとても楽しみにしています。
- 例えば情報発信のためのテンプレートとか、実際に災害対応するときを使うツール類を、平时に職場でどのように保管しているのか(紙で印刷してファイルにとじて棚に置いている?)。平时に通常業務と並行して、災害への備えとか準備を一つの業務として行っているのか、準備をどのように進めているのか、など平時の対応例の紹介。
- 平常時の準備、訓練の企画
- 在留外国人の方々向けの汎用パンフレットや携帯カードなどツール作成ノウハウ等の紹介
- 能登半島地震の対応事例について
- 今後も、事例紹介など他の地域での実際の取り組みや訓練・サポート人材の育成について知る機会があればと思います。

以上